

2014年4月1日
日立アロカメディカル株式会社

X線骨密度測定装置「DCS-900FX」を発表

日立アロカメディカル株式会社(本社:東京都三鷹市牟礼6-22-1 社長:吉住 実)は、X線骨密度測定装置(二重エネルギー骨 X線吸収測定一体型装置)「ダイクロマスキャン DCS-900FX」を発表しました。

超高齢化社会を迎えつつある今、ロコモティブシンドローム(運動器症候群)対策に取り組む動きが広がり、骨粗鬆症の検査が重要視されています。

DCS-900FXは、骨密度測定装置を用いた骨粗鬆症診断において、検査者だけでなく被検者の快適性を重視し、さらに高画質テクノロジーを兼ね備えた装置として開発されました。多様なニーズに適応する、高い汎用性を持ったX線骨密度測定装置です。

(本製品は2014年4月11日から開かれる国際医用画像総合展(ITEM2014)に出展予定です)

【装置外観】



販売名:ダイクロマスキャン DCS-900FX

医療機器認証番号:226AABZX00001000

製造販売元:日立アロカメディカル株式会社

【製品の特長】

1. 省スペース設計が実現する快適性

設置面積 0.72m²というコンパクト設計が、用途に応じた移動や最小限のスペースでの設置を容易にします。またワンタッチで装置ヘッドを開閉する事(ワンタッチオープン機構)により被検者が乗降しやすいよう設計しました。また、位置決めを容易にするガイドライン方式や測定中ガイドカラー表示を採用し、被検者だけでなく検査者の負担も軽減します。

2. 多様なニーズに適応する汎用性

DCS-900FX は、骨密度測定で重要視される腰椎・大腿骨・前腕測定に対応しています。

また、装置の設置高さが調節可能なので X 線撮影装置や市販品の撮影台との組合せができ、限られた空間への設置と多様な組み合わせを可能にします^{※1}。

3. 高画質テクノロジーと快適なアプリケーション

コンパクトで高出力の X 線発生装置と独自のワンパススキャン機能により、高速スキャンと信頼性の高い測定値取得を実現。腰椎測定:約 40 秒^{※2}大腿骨測定:約 20 秒^{※2}という短時間測定により、被検者への負担も軽減することができます。また、日立アロカ独自の BM スタビライザー(骨塩量安定機構)により、高次元での精度管理も可能にしました。

コンペアモード(前回の解析画像比較モード)やメタルリムーブ機能(大腿骨人工骨頭除去機能)等、多彩なアプリケーションを有し、DICOM 通信機能^{※3}も搭載、MWM や MPPS もサポートしています。

※1 設置・組合せ詳細については弊社営業担当者へお問合せ下さい。

※2 標準モードによる。

※3 オプション機能。DICOMはNEMAの医療情報のデジタル通信に関する規格に対する登録商標です。

【日立アロカメディカル株式会社について】

日立アロカメディカル株式会社は、医用電子装置(超音波診断装置など)および汎用分析装置(放射線測定器など)、医用分析装置(検体前処理装置など)の3事業分野におけるリーディングカンパニーです。

日立グループの一員として、人や社会のさらなる安全、安心に貢献するために、“見えないものを見る/変化を照らす”をカタチにした医療機器、計測機器を世界に発信します。

・プレスリリースに関するお問い合わせ先

企画室 TEL:0422-45-2192(直通)

・製品に関するお問い合わせ先

マーケティングコミュニケーション部 TEL:0422-45-5991(直通)

以上